

# 道徳学習指導案

令和元年 11月19日（火） 第3校時  
5年1組 指導者

## 授業の視点

展開中盤の「男女が心が一つにまとまった時の陽子の心の中を考える」という場面において、「最初の陽子と最後の陽子とでは何がちがうのだろうか？」という補助発問を意図的に行うことで、男女間で協力するために大切なことについて気付き、これから男女で協力していこうという態度を育てるであろう。

- 1 主題名 理解し合う心 【B－（10）】友情、信頼
- 2 資料名 「心のレシーブ」（出典：東京書籍「新しい道徳⑤」）
- 3 主題設定の理由

### （1）ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領5学年及び6学年の指導内容項目B－（10）に位置づけられ、「友達と互いに信頼し、学び合って友情を深め、異性についても理解しながら、人間関係を築いていくこと」をねらいとしている。望ましい人間関係は、相手の短所ではなく長所を見つけ、友達のがんばる姿を尊敬する気持ちを持ち、互いのよさを認め、理解し合うことから始まる。そして、協力して学び合う活動を通して、互いに信頼し、支え合う中から互いに前向きになり、できないことができるようになったり、よいところは更に伸ばしていこうとしたりする等、互いを高め合い成長していくといった真の友情が育まれていく。

高学年になると、相手がどのような気持ちでいるのか、少しずつ推測できるようになる。友達との関係もこれまで以上に相手を意識し、仲の良い友達との絆を深めていく一方、趣味や傾向を同じくする閉鎖的な仲間集団を作ったり、男子は男子、女子は女子と同性同士で遊んだりする傾向も生まれてくる。また、異性に関心が芽生えてくる第二次性徴期でもあるため、それが異性への反発となってあらわれることも多い。このような時期に、同性異性、親しい親しくないにかかわらず、互いのよさに目を向け、信頼することから絆を深め、互いに成長していくことに気付き、協力して学校生活をおくろうとする心情を育てることが必要だと考え、本主題を設定した。

### （2）児童の実態

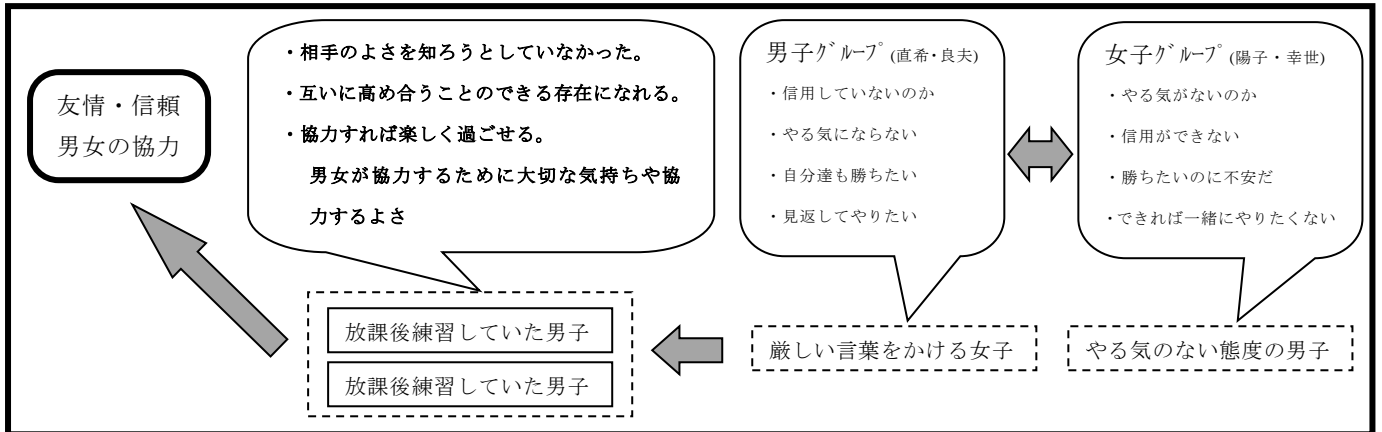
本学級の児童は、進級から約6ヶ月が経ち、委員会活動や係活動、学校行事などにおいて、少しずつ高学年としての自覚を持ち、意欲的に取り組む姿が見られるようになってきている。7月には臨海学校を、9月には運動会を経験し、集団行動・集団生活を通して友達と協力し支え合う中で自己を成長させる喜びを味わい、仲間を大切に思う心が生まれつつある。また、帰りの会に『今日の主人公』と題して友達のよさや成長を伝え合う「ほめ言葉のシャワー」を浴びせる活動を通して、子どもたち一人一人の自己肯定感や自己有用感、学級への所属感が高まってきている。

しかし、同性への仲間意識や信頼は強くなってきている反面、異性に対して、日々の生活の中でお互いに感情的になってしまったり、自分の気持ちをうまく伝えられなかったりといった場面が目立つ。児童に行った事前アンケート「このクラスは男女が協力できていると思いますか？」では、34人中「思う」が5人、「どちらかといえば思う」が25人、「どちらかといえば思わない」が3人、「思わない」が1人と、自信をもって男女で協力ができているとは言い切れない様子が見える。特に「どちらかといえば思わない」「思わない」と答えたのはすべて男子であるが、その男子たちは日頃から当番活動などの仕事を責任をもって果たせなかったり自己中心的な傾向があり、女子から注意される場面も多い。また、「クラスの男女で協力するにはどうしたらよいと思いますか？」の質問には、「けんかをしない」「自分がやられたら嫌なことをしない」「悪口を言わない」「お互いに注意し合う」などといったネガティブなものが多く、相手のいいところを見つけて認めていこうというものはほとんどなかった。男女で協力することは大切だと頭では分かっているが、具体的にどうしてよいかわからずに、自分の立場からの見え方や感じ方だ

けで判断してしまい、結局協力できない原因を相手の中に見つけようとしてしまっている現状がうかがえる。学級スローガンの『みんなで成長』するためにも、男女で協力していこうという気持ちを育てたい。

### (3) 教材について

バレーボールの得意な陽子が、はじめは同じチームの男子にやる気がないと不満をもっていった。しかし、運動の苦手な男子の練習試合の頑張りから、地道に真剣に練習をしていたことを知る。陽子は、それまでに決めつけた見方をしていたことに気付いて反省し、大会に向けてチームの心が一つになるという教材である。男子のよさや自分に欠けていた態度に気付いた陽子の気持ちから、男女が協力するために大切にしたい態度や男女が協力するよさについて話し合うことができると思う



## 4 指導方針

〈事前〉・本時のねらいに関わって、アンケートを行う。

〈本時〉・資料への関心を高め、本時への方向づけをするために、事前アンケート結果を提示する。

・人間理解として「男女で協力すること」の難しさについても触れる。

・多面的に考えられるように、女子からの立場だけでなく男子からの立場についてのことも考える。

・ワークシートを工夫し、児童がねらいとする価値にせまりやすくする。

・めあてについての考えをまとめる場面では、児童の考えをつなぎながらできるだけ児童の言葉でまとめていくようにする。

・児童の思考の流れや本時で学んだことがわかりやすくなるように板書を工夫する。

・今後の道徳的実践意欲の向上を図るために、終末に事前アンケート結果を提示する。

〈事後〉・帰りの会の「ほめ言葉のシャワー」や「成長日記(200字帳)」などの日常的な実践を通して、道徳的価値を支える自己有用感や自己肯定感、学級への所属感の高揚を図る。

## 5 校内研修との関連

玉村小学校では、深い学びを実現させるための多様な学び合いの活動の工夫について各学年・ブロック等で検討してきた。高学年の「深く考える児童像」は、「自分の考えをもち、根拠をもとに伝え合いながら、より良い考えを見つけ、考えの変化を実感し、自分の言葉で工夫して表現することができる。」である。授業の中でどのように「発問構成」を工夫すれば深い学びにつながり、どのように「ふり返り」をすれば、児童は自分の考えの変化や学びを実感することができるのか検討してきている。

今回の道徳の授業では、追究する場面において、道徳的価値についての自分の考えをもって交流しやすくなるであろう補助発問を設定した。そして交流を通して道徳的価値に対する多様な意見を知ったところで、学習のめあてについても一度考えるといった発問構成にした。また、ふり返りの場面では、本時で扱った道徳的価値に対する思いや願い、考えを振り返ることができるような発問をし、一人一人ワークシートに書かせて発表し合うことで授業前と授業後の自分自身の考えの変化やクラスメイトの考えの変化を実感することができるのではないかと考える。

6 本時の学習

(1) ねらい

男女の心が一つになる最後の場面で、最初の陽子と最後の陽子を対比して陽子の心の中を考えさせることを通して、男女間で協力するには、決めつけた見方にとられることなくがんばりやよさを認め合うことが大切であることに気づき、男女で協力していこうとする心情を育てる。

(2) 準備

ワークシート・場面絵・事前アンケート結果

(3) 展開

	学習活動	○主な発問 ◎中心発問 ☆補助発問 (予想される児童の反応)	時間	教師の支援と留意点
導入	本時のめあてを知る	<p>○「今このクラスの男女は協力できていると思いますか？」</p> <p>事前アンケートの結果</p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>□ 思う</li> <li>▨ どちらかといえば思う</li> <li>▤ どちらかといえば思わない</li> <li>■ 思わない</li> </ul> </p> <p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まあまあできているけど協力できてないって思っている子もいるんだな。</li> <li>・自信をもって協力できているとは言えないかも。</li> <li>・なかなか男女の協力ってむずかしいな。</li> </ul> </p> <p><b>めあて 男女で協力するために大切なことは何だろう？</b></p>	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前アンケートの結果を示し、男女間でお互いへの不満があることを示し、協力しきれていない現在の状態を実感させる。</li> <li>・児童の素直な気持ちを共感的に受け止めながらめあてを示し、本時の方向性を共有する。</li> </ul>
展開	教材文の範読を聞き、話し合う。	<p>○「女子は男子のこと最初どう思っていたと思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やる気ないなあ。</li> <li>・試合勝ちたいのに・・・ちゃんとやってほしい。</li> <li>・信用できない。</li> </ul> <p>○「それに対して男子はどう思っていたと思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・信用してくれよ。それじゃやる気出ないな。</li> <li>・がんばっているのにそんな言い方なんて嫌な感じ。</li> </ul> <p>◎「直希のかけ声にみんなが力強くうなずいた時、陽子は心の中で何を考えたでしょうか？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子が上達してくれてこれなら勝てるかもしれない。</li> <li>・みんなでがんばっていききたいな。</li> </ul> <p>☆「最初の陽子と最後の陽子では何がちがうの？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・男子ががんばっていたのに決めつけてしまっでごめん。</li> <li>・自分のことばかり考えてしまっていたな。</li> <li>・男子がこんなにうまくなるなんてすごい。たくさん練習したんだな。</li> <li>・これからは男子とも協力してチームのためにがんばろう</li> </ul>	23分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面絵を提示しながら内容を整理し、把握しやすくする。</li> <li>・男女それぞれの立場について考えさせることで、勝ちたい思いは同じなのに自分のことばかり考えていることで協力できないことに気付かせる。</li> <li>・陽子の心の中を考えやすくするように、吹き出しで考えさせる。</li> <li>・最初の陽子についてももう一度おさえることで、陽子自身の課題に気付かせ、ねらいとする価値に迫れるようにする。</li> </ul>

	<p>めあてについて考える</p>	<p>●「男子はどう思ったと思う？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がんばりを認めてくれてうれしい。がんばってよかった。</li> <li>・これからは力を合わせてもっとがんばるぞ。</li> </ul> <p>○「男女で協力するために大切なことは何だろう？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・決めつけをせずに信じること</li> <li>・自分のことばかり考えずに相手のことを考えること</li> <li>・自分からがんばりに気付いてみとめること</li> <li>・いいところをほめ合っていい雰囲気をつくること</li> </ul> <p>→これは男女だけじゃなくて誰にでもあてはまる気がする</p> <p>●「男女で協力できるとどんないいことがあるだろう？」</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男子の気持ちを考えることで、がんばりを認めてもらうことがより協力していこうという気持ちにつながることをおさえる。</li> <li>・児童の考えをつなぎながら、できるだけ児童の言葉でまとめていくようにする。</li> </ul>
終末	<p>本時の学習を振り返る。</p>	<p>○「これまでの自分はどうだったでしょう。これからはどのようにしていきたいですか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで男子の悪いところばかり見てきたけど、いいところやがんばっているところにも気付いていきたい。ほめ言葉のシャワーががんばろう</li> <li>・男女の協力のヒントがわかってよかった。もっといいクラスにしていきたいな。</li> </ul>	7分	<ul style="list-style-type: none"> <li>・男女で協力するために、自分がこれからどのように行動していくべきなのか発表させる。</li> <li>・これから男女でもっと協力していこうという気持ちをもてるように、男女お互いのいいところについて書いた事前アンケートの結果を提示する。</li> </ul>

# 男女が協力 するために大切なのは何か？

めあて

大切!!

花ざかり

男子

女子

『バのレビュー』

やる気はない  
 勝たない  
 相手に負けてほしい  
 信頼できない

信用してくれ!  
 それじゃあ出ない  
 がばってるのに  
 そんな言方 又で感じ

☆ 女性だけが強くない時  
 陽子はバの中を何を考えた？

男子が上運(ため)  
 このバが勝てるかも!  
 男子が人ばって下の方に  
 気がつくでうん

自分勝つためのバからは  
 協力がチームでは出ない  
 男子がバにほめてもらって  
 太く練習したんだら  
 信用した勝つぞ!

決めつけせず信じること  
 自分には何が考えずに  
 相手の気持ちを考えること  
 自分から人が人ばつに  
 気がつくことに  
 よいほうと目合  
 いいん意見を伝える



- バのレビュー
- 相手の考えがわかる
  - 相手の出来(強-弱)-そのバ
  - 自分もわかる
  - 強弱しても練習したバをバ
  - 信じて

- バのレビュー
- バが強い、強いバが強い
  - バが強い、強いバが強い
  - 強弱を要する